

生涯学習

No.507

かおり高い

文化のまち

平和への想い



下諏訪町遺族会 高木 重由

会になっていく気がしてなりません。

終戦の年に生まれた私は、妻の叔父が満州で戦死していることから遺族会員として活動させていだいておりますが、私自身、小さいときの食糧難くらいしか戦争の影響を受けていません。現在は、世の中の大半の人々が戦争の悲惨さ、辛さ、厳しさを知らない社会になってしまいました。

先の大戦においては、数多くの方々が故郷を離れ、ひたすら祖国の平和と発展を願い、愛する家族を案じつつ、戦禍に遭われ、戦いの中で傷つき、倒れ、あるいは戦後、遠い異郷の地で帰らぬ人となりました。そのことは私たちにとって永遠に忘れることのできない深い悲しみであり、決して忘れてはならない事実であります。

遺族の皆さんはこのことを忘れずに毎年終戦の日を迎え、この日に行われる戦没者追悼式で意を新たにしています。戦後七十年を過ぎて、遺族も子の世代から孫の世代に移りつつあり、戦争のない平和が無意識の感情になっていくのではないのでしょうか。

世界に目を向けてみますと、戦争や地域紛争、難民問題が多くの地域で絶えることなく発生しており、「平和への願い」を打ち砕くような出来事に、心が痛む中で、日本の平和のありがたさが良くわかります。

昨今では、憲法改正で国民が戦争へ徐々に近づくように感じているのは遺族に限らないと思います。日本だからこそ、不戦を強く貫いて世界平和に結びつけてほしいと強く願うのは、私一人ではないでしょう。

すべての世代の人々が、悲しみの歴史を繰り返さないとの決意を新たにするとともに、戦没者の方々が、かけがえのない命をもって示された戦争の悲惨さと平和の尊さを風化させることなく、しっかりと語り継ぎ、国際社会に向け発信していくことが、現在を生きる者としての重要な使命であるでしょう。



平和な姿を見せる現在の大社通り

発行 下諏訪町教育委員会
編集 生涯学習
編集委員会

〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
(下諏訪総合文化センター内)
☎ 0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
E-mail=syougai@town.shimosuwa.lg.jp

平和への願い



高木 林 美歩

毎年8月になると、必ず観る映画があります。野坂昭如が自らの体験をもとに書いた小説をスタジオジブリがアニメ映画化した「火垂るの墓」です。戦争によって両親を失った幼い兄妹が必死に生きる姿が描かれており、負傷した母親や衰弱していく幼い少女の描写には、思わず目を背けたくなります。映画のタイトルにもなり、映画の中にもしばしば登場するホテルですが、その儚い一生を戦争で亡くなっていた人々と重ね合わせているとも言われています。7年前に亡くなった私の父も、この映画がテレビで放映される



「火垂るの墓」
(徳間アニメ絵本)

と毎回観ていました。父は、戦時中の昭和十八年に生まれました。名前も、戦時中によく使われた「八紘一字」という言葉から「一字」と名付けられたようです。そんな父が、電気を消した暗い居間で一人「火垂るの墓」を観ながら静かに泣く姿を見かけたことがあります。私の知らない時代を生きてきた父を垣間見たようで、なんとなく声もかけられず、その姿をそつと陰から

覗いていました。私は幼少のころ、叔母に連れられて広島市の平和記念資料館を訪れたことがあります。真っ黒に焦げたお弁当箱、熱線で石に焼き付いた人の影、幼子が庭で乗っていた三輪車・・・三十年ほど前に見たのに、今でも忘れられません。強烈な熱線によって服や髪の毛がポロポロになり、皮膚が溶けた人の様子を再現した人形は特に衝撃的で、これを見た私は思わず逃げ出してしまいました。しかし平和記念資料館を見学したことで、大人になつた今でも戦争について考え、「戦争は絶対いけないということの後世に伝えなければいけない」と考えるようになりました。私には子どもが三人いますが、子どもたちがもう少し成長したら、一緒に広島を訪れたいと思っています。

平和記念資料館の展示品を見たとき、もしかしたら私のように逃げ出してしまいかもしれません。脳裏に焼き付いて離れず、悲しくなってしまうかもしれません。しかし戦争を体験された



被爆直後の原爆ドーム
(撮影：米軍、提供：広島平和記念資料館)

方々が少なくなってきた現在の、このような場で現実に取り上げたことを正確に受け止めるのはとても大切なことだと思わず。そしてその怖さや悲しさを「明るい未来」へ繋げていくにはどうしたら良いのか、家族みんなまで語り合っていけたらと思います。

「火垂るの墓」に出てくる幼い兄妹が体験したような深い苦しみや悲しみが、この世の中にこれ以上生み出されることがないことを心から願います。

「若鷲の記」に寄せて

西鷹野町 中山 より子 述



はじめに

西鷹野町在住の中山さんは、先の大戦で、最愛のお兄様を二十三歳という若さで亡くされました。中山さんは九十歳を超えた現在も大変お元気で、お兄様との思い出や亡くなられたときのこと、遺稿集出版の経緯など、詳しくお話しくださいました。

* * *

——お兄さんのお人柄、思い出について

中山…兄、博は大人しく大変優しい性格で、近所の子どもたちにも慕われ、博さんには叱られたことがないと評判でした。諏訪中学校に進学しましたが、四

年生の諏訪湖一周マラソンでは学年で一位になる等、運動も得意でした。

——中学校を卒業後、東京にあった海軍技術研究所を経て、霞ヶ浦の海軍航空隊に入隊されたのですね。

中山…航空隊からは、毎週のように手紙やはがきをくれました。中学校の時から和歌をよく書いて、日記にも折々の歌が残っています。航空隊に入ってから

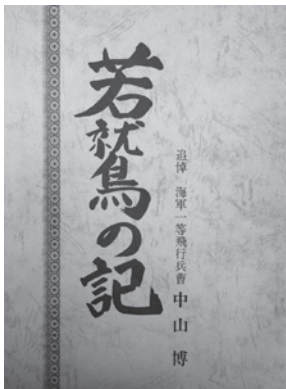
は、命を国に捧げる覚悟をしていたようで、便りにも書かれています。国を挙げて、戦争に向かっていた時代でした。

——亡くなられた時のご様子はいかがでしたか？

四月十四日に届きました。「二ユーギニア方面にて壮烈なる自爆を遂ぐ」という公報の内容を、両親も私も全く信じることができず、幾晩も泣いて過ごしました。公報を配達してくれた郵便局の方も、配達物の中に中山の名前を見つけ、道々泣きながら届けてくれました。



中山博さんご遺影



「若鷲の記」

たのですが、やはり生きていてほしかったと、今でも思います。——遺稿集出版のお話は、どんなに進められたのですか。中山…本人の従兄弟や私の息子が話を進めてくれました。二十三という若さでお国に殉じた兄の思いを託した歌や文章、戦いに臨んでの遺書などが残されていて、兄の心の記を皆さまに読んでいただけたら本人の供養になるという気持ちでした。

——「若鷲の記」より

・幾山川 越えて来しけむ

ちちははに

見えて語る 今日ぞ嬉しき

・この市を妹と二人で

歩くのも

これが最後の 最後にして

・空襲の爆音聞きつつ

星空を

眺めて思ふ 故郷の父母

* * *

——お話の中で、中山さんが洩らされた、「今は平和でいいですね。」という言葉が心に残っています。(山田 記)

公民館特別事業 「みんなの願いはひとつ」

特別展 ～いっしょに考えてみませんか～

期 日：7月15日（金）～8月3日（水）

会 場：下諏訪総合文化センター1階 展示コーナー

内 容：広島原爆資料館から借用したポスターの展示及びビデオの視聴
「ある出征者による戦争の記録」の写真展示
「平成18年豪雨災害を振り返る」の写真展示

町民総合文化祭 参加団体募集

参加申込用紙は文化センター内公民館窓口にあります。

☆新規参加団体歓迎

	開催日	申込締切	対象者
作品展	9月30日（金） ～10月2日（日）	9月1日（木）	町民および町内の 各種団体・学校 ※作品展は個人も対象となりますので、ご相談ください。
芸能祭	10月2日（日）		
音楽祭	10月16日（日）		

〈問合せ・申込先〉下諏訪町公民館 28-0002

町民大学 下諏訪を学ぶ ③



演 題：「霧ヶ峰の歴史と文学」

講 師：市川 一雄（下諏訪町文化財専門委員）

日 時：8月21日（日） 午後1時30分～午後3時00分

会 場：文化センター集会室 ※当日受付可（受講料100円）



霧ヶ峰の草原は、農業用の採草地として萩倉などの農村によって守られてきた農業遺産でもあります。大風の鎮めを祈った御射山の^{まつ}祀りは、鎌倉時代に広く世に知られるようになり、穂屋を詠んだ歌が^{ちよくせん}勅撰和歌集にも収められました。諸国に^{かんじょう}勧請された諏訪社でも穂屋祭が行われたようで、芭蕉も穂屋の句を残しています。諏訪にきた形跡のない一茶が、御射山の句を作っているのは、産土の柏原諏訪社の祭りに親しんだ証と思われる。明治になると霧ヶ峰は観光地化しましたが、赤彦は年に5回も登って歌に詠み、戦後は三島由紀夫、新田次郎が、高原や鷲が峰を舞台にした小説を書きました。藤森栄一には随筆「御射山物語」があります。（講師コメント）

お問い合わせ ☎28-0002（生涯学習係）

ほのぼの

まちかどで

「おはようございまあす！」
元気なあいさつで一日が始まることは、とても気持ちがいい。

私は、三年前から健康のためにウォーキングを続けている。通勤もなるべく徒歩を心がけている。

毎朝行き会う人は、自分と同じようにウォーキングをしている人、通勤途中のサラリーマンや犬の散歩をしている人たち。「おはようございまあす！」とあいさつをすると、初めて会った人でも「おはようございまあす！」とあいさつが返ってくる。これが二度、三度と続くと知り合いになったような気がして、近頃は顔見知りもずいぶん増えた。

二ヶ月ほど前のこと。いつも同じ時間にすれ違っておじさんの姿が見えない日があった。翌日も、その次の日も。三日も会わないとさすがに「どうしたんだろう…？」と心配になった。翌朝、「おはようございまあす！」いつもと変わらない元気なおじさんの姿にホッとしました出来事であった。

（御子柴友香）



6 「家庭読書の日」の感想のほんの一部をご紹介します

- ・家族みんなでゆっくり1冊の本を読む大切な時間です。
- ・本を通してメッセージを伝え、感性を養うことができると感じています。日頃の生活のなかでうまく届かない、説明できないことを、本を通じて子どもが想像し理解しているようです。
- ・親にとっても安らぎの時間です。子どもと楽しみたいと思います。



7 「家庭読書」についてのQ&A ～寄せられた質問に読書推進委員が提案します～

1

子どもがワクワクしすぎて早く次が見たくなり、どんどんページをめくってしまいます。

めくる楽しさを味わっているところだとしたら無理やり読もうとしても難しいかもしれません。文字を読まなくてもよいと思います。「きれいな絵だったね、〇〇だったね。」と絵での読み取りを子どもと確認し、「次はもっとお話し、じっくり見てみようよ。」「『どうぞ』っていったらページをめくってみてね。」など最初に約束してから読み進めてもよいと思います。「この本の読み聞かせは1回限りではない」と考えて、いろいろな楽しみ方をしてみてはいかがでしょうか。

2

本の最後のページまで読み終わるまで座ってられないときが多く困っています。

座ってられないのはなぜなのかを考えてみてください。お子さんの好きな内容、絵のイメージ、字が少なくすぐに終わってしまうような優しい本を選んで読んでみてもいいと思います。ひざに入れて、落ち着いて読んであげてください。

3

いつも同じ本を読みたがるのですが、子どもが飽きなければそれでもいいのでしょうか。

気がすむまでつきあってあげるのが基本だと思います。ふっと、「今日は違う本でもいいかな」という日がくると思います。絵本を読むたびに新しい発見があるかもしれませんし、それで安心するのかもしれません。そんなに好きな本に出会えて幸せ。覚えてしまうくらい、繰り返し読んであげてください。

4

きょうだいで親に読んでほしい本が異なり、時々けんかになってしまいます。

ルールを決めてみてはいかがでしょうか。生活の場面の中で「今日はお手伝い頑張った人の本を読もう。」などというようなごほうび形式にしたら親も助かっちゃうかもしれません。きょうだいで順番を決めたら公平ですね。その約束も、親が一方的に決めないで、子どもと一緒に決めることが大切です。

5

子どもが寝る時間を過ぎている場合は、読んであげた方がよいのか、時間を守った方がよいのか悩んでいます。

子どもが求めているときは、ちょっと寝る時間が遅くなっても読んであげて満足した方が心も安定して早く寝つけるのではないのでしょうか。ただ、時間で寝かせることも大切ですので、次への楽しみにして、別の日に時間をやりくりして読んであげてもよいと思います。

6

本人の読みたい本と親が読み聞かせをしてみたい本と合わないことも多いです。

どちらも読めば、幅が広がると思います。親の紹介した本をいつでも受け入れてくれるわけではありませんので、押しつけない気持ちで紹介してあげることはよいことだと思います。

7

親自身が毎日忙しすぎて、本を読む姿を子どもに見せていないのが課題だと思っています。

私は本を読みますが、子どもは読みません。親が本を読む姿を見せていても、子どもが読むようになるとも限りません。家庭読書の日をきっかけに親子でコミュニケーションを重ねて、将来どこかで影響しあえればいいですね。

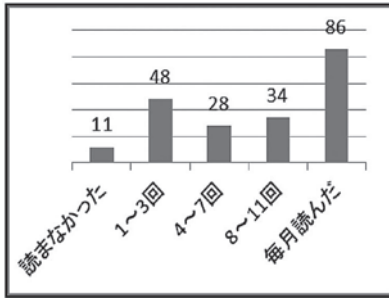
読書推進委員会より アンケート結果からは、日々の読書が子どもの心を育み、親子をつなぐツールとなっていることが見えてきました。読書推進委員会では、本にかかわる諸機関それぞれが読書を通して子育て・子育ての輪を広げながら、生涯にわたる読書活動を支えていけるよう活動を続けて参ります。

「町内一斉家庭読書の日」 保育園向けアンケート結果報告

下諏訪町読書推進委員会

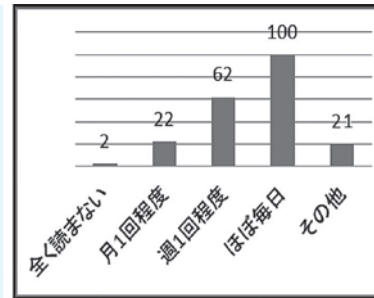
下諏訪町では、メディアやゲームが普及する現代社会のなかで、家庭で本を通じてコミュニケーションをはかり、親子関係を育む日として、毎月第二日曜日に「町内一斉家庭読書の日」を実施しています。その成果をふり返り、今後の活動にいかすため、3月に保育園でアンケートを行いました。
 ※対象 平成28年3月1日現在在園児471名 回答数207件（回収率43%） ※グラフの単位：人

1 平成27年度の「家庭読書の日」に、どれくらいお子さんと本を読みましたか？



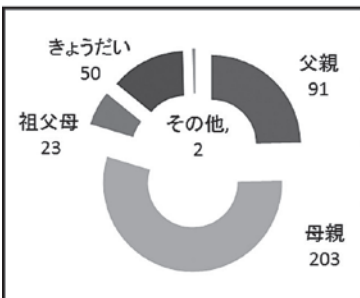
「家庭読書の日」に合わせて読むのは難しい家庭もあるようです。各家庭で「読書の日」を作ってみてもよいかもしれません。

2 「家庭読書の日」以外に、どれくらいお子さんと本を読んでいますか？



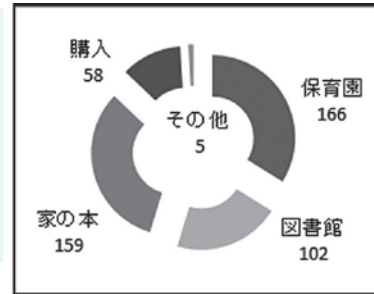
4人に1人は「家庭読書の日」以外にも、ほぼ毎日本を読んでいることがわかりました。しもすわっ子は、家庭で本を読む時間を大切にしています。

3 お子さんに本を読んであげるのは、おもにだれですか？（複数回答）



本を読んであげるのは、「母親」「父親」が大多数でしたが、きょうだいで読むお家も多かったです。

4 家庭で読む本は、どこの本ですか？（複数回答）

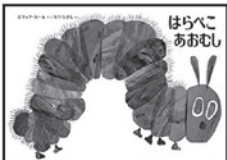


半数以上の家庭が、保育園や図書館での貸出しを利用していました。アンケートの声をいかし、各施設でさらに工夫をしていきたいと思っています。

5 保育園児に人気があった「お子さんが喜んだ本、心に残っている本、好きな本」



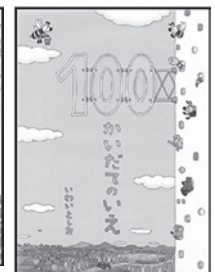
3歳未満児クラス
『パンツのはきかた』、
『はらぺこあおむし』



すず組（年少）
『だるまさん』シリーズ、
『ノンタン』シリーズ

もも組（年中）

『いいからいいから』シリーズ、『11ひきのねこ』、『100かいだてのいえ』、『14ひき』シリーズ、『からすのパンやさん』



うめ組（年長）

『めっきらもっきらどおんどん』、『給食番長』シリーズ、
『おしりたんてい』シリーズ、『ばばばあちゃん』シリーズ

